

4

地域公共交通が抱える課題

1 地域公共交通網形成計画の評価

本市では、2019年3月に、計画期間を2025年3月までとする「宇城市地域公共交通網形成計画」を策定しており、6つの基本方針をもとに、5つの施策・事業を進めてきました。本章では、これら施策・事業の取り組み状況と当初設定した目標値の達成状況を整理し、評価を行いました。

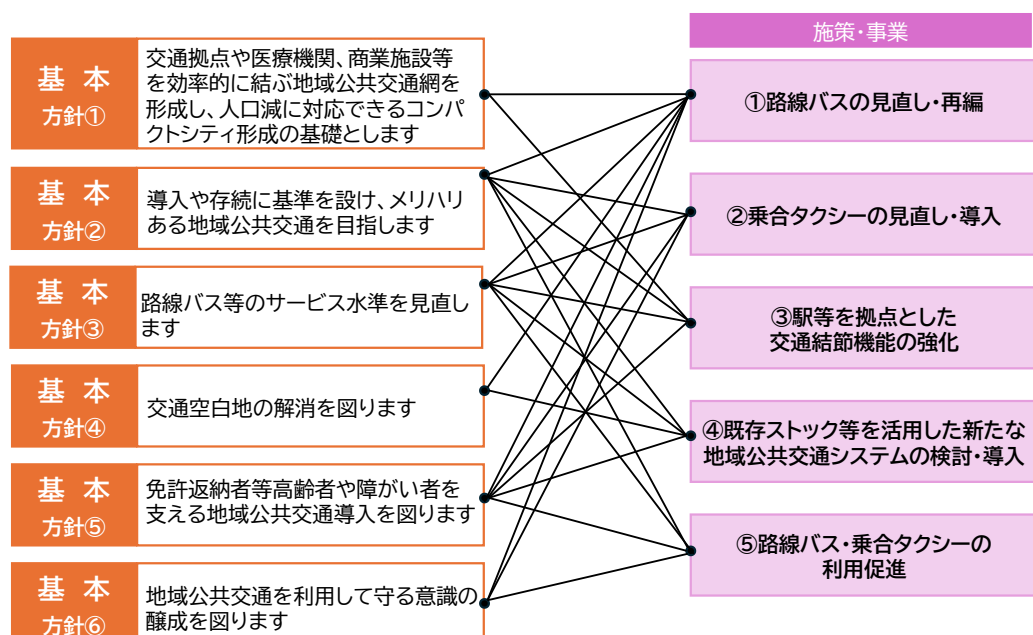
1 総評

「宇城市地域公共交通網形成計画」では、期間中に、コロナ禍という社会変化があったことなどから、各事業の実施や目標達成が困難になる等、様々な影響を及ぼしました。

特に、公共交通の利用者数・利用率は、現状値(網形成計画策定時)を下回る結果となりました。また、路線バスに係る補助金額は、削減を目標としていましたが、増額する結果となりました。

今後は、コロナ禍を経た市民の生活スタイルの変化等の社会環境の変化にあわせ、利用者のニーズを考慮した効率的な運行により、今まで以上に公共交通の利便性向上に向けた施策に取り組む必要があります。

また、地域公共交通に対する市民の意識醸成のため、引き続き、利用促進策や利便性向上策によって、着実な利用者層の定着を図ることも求められます。



▲宇城市地域公共交通網形成計画の基本方針と施策・事業

2 事業の実施状況

事業	施策・事業の取組概要	
	実施状況	施策・事業①：路線バスの見直し・再編
三角地域における路線バス再編	○	前計画で特に早急な対策を講じるとした、三角産交一大口線、三角産交一小田良線、黒崎環状線の3路線は令和5年3月31日をもって廃止しました。代替する路線のない黒崎環状線については、既存の戸馳エリアを運行の予約乗合タクシーのエリア拡大で対応しました。 また、三角産交―松橋産交線、三角産交―宇土駅前線については、令和6年4月に、さんばーる―三角産交線については、令和5年10月に減便を行いました。
三角～松橋線の見直し	○	令和6年4月1日で三角地区の路線バス2路線（三角産交―松橋産交、三角産交―宇土駅前）を減便しました。
松橋駅を拠点とした路線バスの見直し	○	九州産交バスの窓口機能移転（松橋産交→松橋駅）の申出を受け、松橋駅地域交流スペースを所管する都市整備課との調整を開始しました。
事業	実施状況	施策・事業②：乗合タクシーの見直し・導入
導入基準に基づく乗合タクシー等を活用した新たな地域公共交通の導入	△	令和5年4月から試行運行後、令和6年4月から黒崎環状線の廃止により、三角町の東港四区・東港五区・赤岩・黒崎・金桁で、既存の戸馳地区乗合タクシーのエリアを拡大しました。 令和4年度～5年度にかけて優先検討地区としたすべての地区に説明会を実施しましたが、新規導入には至りませんでした。
乗合タクシー存廃検討基準に基づく既存乗合タクシーの運行内容等の見直し	×	存廃検討基準に該当するのは戸馳地区（①R2 から R5 まで 22%、②R5 から 1.5 人未満）と小野部田地区（①R2 から 25% 未満、②R2 から 1.5 未満）でしたが、コロナ禍等もあり、状況を考慮し存廃検討をしませんでした。
事業	実施状況	施策・事業③：駅等を拠点とした交通結節機能の強化
松橋駅の交通結節機能強化	○	九州産交バスの窓口機能移転（松橋産交→松橋駅）の申出を受け、松橋駅地域交流スペースを所管する都市整備課との調整を開始しました。
市街地や観光地を回遊する新たな地域公共交通の導入	×	特に取り組んだことはありませんでした。
イオンモール宇城の交通結節機能強化	○	イオンモール宇城と JR 小川駅を結ぶルートで令和6年12月に自動運転バスの実証実験を行いました。

事業	実施状況	施策・事業④：既存ストック等を活用した新たな地域公共交通システムの検討・導入
既存施設等を活用した交通（乗換）拠点の創出	×	特に取り組んだことはありませんでした。
既存交通（快速あまくさ号、戸馳地区乗合タクシー）の観光等への活用	△	令和 6 年 10 月から快速あまくさ号の土日祝の一部の便において、三角産交（三角駅前）経由へ変更されました。
スクールバスの有効活用	×	特に取り組んだことはありませんでした。
事業	実施状況	施策・事業⑤：路線バス・乗合タクシーの利用促進
市民等を対象とした地域公共交通乗り方教室の実施	○	令和 2 年、令和 3 年はコロナ禍ということで実施できませんでしたが、令和 4 年には不知火美術館図書館主催のイベントに出展する形でバスの乗り方教室を実施し、令和 5 年にも同様に不知火美術館図書館主催のイベントに出展する形でバスの利用促進イベント（バスの乗車体験・運転士からのお話・バスアナウンス体験）を実施しました。
地域公共交通マップの作成と情報の提供	○	①令和 4 年度に利用促進パンフレットを作成し、情報発信の強化として、バスの路線図や乗り方説明など主に路線バスに関する内容を掲載。令和 5 年度に市内の全小学生へ約 3,000 部配布しました。その他上記のバス関連イベントでも参加者に配布しました。 ②令和 5 年 10 月から宇城市の広報誌で公共交通の隔月連載を行っています。 ③乗合タクシーの停留所更新のため標識を作成し、利用者が多い場所及び公共施設等に計 9 台設置しました。
料金システムの見直し	△	令和 7 年度に向けて、乗合タクシーの運行に係る市の補助制度の見直しを行っています。
路線バスと乗合タクシーを活用した観光ルート等の構築	×	特に取り組んだことはありませんでした。
免許返納者への公共交通利用促進	△	令和 1 年 10 月から、バス会社窓口「免許返納者割引乗車証」を申請した免許返納者に 1,500 円分チャージ済 IC カードの進呈を始めましたが、公共交通の利用状況は把握できていないので今後の課題となっています。

取り組みの実施状況：○ 実施した

△ 一部実施した、もしくは検討・調整等を実施した

× 実施しなかった

3 目標の達成状況

目標値	現状 (網形成計画 策定時：2019 年)	目標 (2024 年)	実績値 (見込み値)	達成 状況
①－1 交通拠点（駅）への地域公共交通の利用率の向上	松橋駅 約 4% 小川駅 約 8% 三角駅 0%	松橋駅 15% 小川駅 20% 三角駅 18%	松橋駅 約 5% 小川駅 約 2% 三角駅 約 8%	× × ×
②－1 路線バスの年間利用者数の増加	799 千人	840 千人以上	666 千人	×
②－2 路線バスに係る補助金額の削減	100,848 千円	80,000 千円 以下	128,785 千円	×
②－3 乗合タクシーの1便あたり利用者数の増加	1.3～2.1 人/便	全系統 2.0 人/便以上	1.2～1.6 人/便 (R5 年度)	△
④－1 交通空白地居住人口の減少	4,700 人	1,700 人	4,100 人	△
⑤－1 65 歳以上の高齢者の地域公共交通利用率の向上	17%	23%	約 4%	×
⑥－1 市民の地域公共交通に対する意識(市全体)の向上	約 65%	約 71%	約 73%	○

2 地域公共交通が抱える課題

1 問題点の整理

アンケート調査等から把握した宇城市の問題点を整理しました。

上位・関連計画の整理	松橋駅周辺では空き家等が増加し都市の密度が低下する、いわゆる都市のスポンジ化が進展しています。そのため、<u>立地適正化計画では、誘導施策として松橋駅の交通結節機能の強化と松橋駅周辺の都市再生を掲げています。</u>
地域特性	<u>人口減少・高齢化</u>が進行しており、今後もさらに進展する見込みです。特に、三角町、豊野町の人口減少・高齢化が著しい状況です。 <u>買い物や通院で訪れる施設は、松橋町に集中しており、小川町や三角町にも立地</u>している状況です。 - 高齢者の運転免許保有率は7割以上となっており、そのうちの約8割が5年以内に返納するつもりはないと回答し、自主返納は進んでいない状況です。
地域公共交通の現状	【鉄道】 - 松橋駅、小川駅、三角駅の乗車人数は、コロナ禍の減少から回復傾向にあります。 【路線バス】 <u>路線の廃止・減便</u>が相次いでいる状況です。 <u>輸送人員は</u>、コロナ禍の減少から回復傾向にあるものの、コロナ禍前からの<u>減少傾向が継続</u>している状況です。 - 路線バスに対する<u>欠損補助額は増加傾向</u>にあります。 【乗合タクシー】 - 乗合タクシーの<u>利用人数は減少傾向</u>にあり、乗合率も低下傾向にあります。 - 補助金額額は全体では、減少傾向にありますが、<u>1回当たりの補助金額は増加傾向</u>にあります。 【その他】 <u>交通空白地が点在</u>している状況です。交通空白地への対応として、令和4年度～5年度にかけて優先検討地区としたすべての地区に乗合タクシー導入についての説明会を実施しましたが、<u>新規導入には至っていない状況</u>です。 - 市内6校でスクールバスを運行している状況です。
アンケート調査	【市民アンケート調査】 <u>約7割が公共交通を利用しない</u>との回答がありました。 <u>公共交通への改善要望</u>としては、<u>運行本数</u>が最も多く、<u>運行ルート</u>、<u>各公共交通の乗り継ぎ</u>と続きます。 - 公共交通への満足度としては、<u>半数以上がやや不満、不満</u>と回答している状況です。

	【駅・バス停利用者アンケート調査】 ・学生の割合が高く、<u>通学に多く利用</u>されている状況です。 ・改善要望としては、運行本数が最も多く挙げられました。 【乗合タクシー利用者アンケート調査】 ・60 歳以上が利用しており、特に<u>高齢者のみの世帯の方の利用が多い</u>傾向にあります。 ・主に買い物、通院での利用が多く、<u>運行本数の増便に対する要望が強い</u>傾向にあります。 【商業施設利用者アンケート調査】 ・多くの方が車で来訪しており、日常的に公共交通を利用している方は少ない状況です。 【企業・事業所への通勤等に関するアンケート調査】 ・アンケート調査に協力いただいた宇城市内の企業・事業所では、送迎サービスが実施されていない状況です。 ・通勤手段は、自家用車が多数を占めますが、路線バスや JR で通勤する方も一部いる状況です。 【学生への通学等に関するアンケート調査】 ・宇土高校と松橋高校は、3～4 割が公共交通で通学しています。 ・<u>小川工業高校</u>は小川駅にも近いことが影響し、<u>約 6 割が JR で通学</u>しています。 ・支援学校では、公共交通を利用して通学している生徒は少ない状況にあります。 【民生委員への地区の生活交通に関するアンケート調査】 ・多くの地区には、移動手段を持たない高齢世帯が居住している状況にあります。 ・<u>移動手段を持たない方はタクシーや親族・知人の送迎で移動</u>している状況にあります。
ヒアリング調査	【交通事業者】 ・路線バス、タクシーともに<u>運転手が不足</u>、また<u>高齢化</u>している状況です。 ・路線バスの<u>利用者は減少傾向</u>にあり、それに伴い<u>運賃収入も減少傾向</u>にある一方で、燃料費高騰により<u>運行経費は増加</u>しています。 ・<u>タクシー事業は、需要量が供給台数を超過する時間帯</u>があります。 【商業施設】 ・商業施設へは自家用車で来訪が多数となっており、公共交通への要望は少ない状況です。 ・イオンモール宇城では、現在無料のコミュニティバスが運行されています。また、令和 6 年 12 月に<u>自動運転実証実験を熊本県内で初めて実施</u>し、駅周辺の立地環境を活かし域内交流によるにぎわいの創出及び活性化を図るとともに、持続可能な地域社会の実現に向け、<u>自動運転 EV バスの導入・運行可能性</u>を検討します。

	【医療機関】 ・<u>施設入口までの路線バスの乗り入れ、待合環境の改善等、路線バスに関連した改善要望</u>が利用者からの要望として挙げられている状況です。 ・各施設で、送迎支援、訪問診療等が実施されている状況です。 【庁内関係部署】 ・宇城市では、令和 5 年に立地適正化計画が策定されており、コンパクト・プラス・ネットワークの観点から、<u>まちづくりとあわせた交通ネットワーク構築</u>が必要となります。 ・高齢者等に必要に応じた<u>移動支援施策が必要</u>な意見がありますが、一方でタクシーは予約が取りにくい状況となっています。 ・<u>三角駅から三角西港にアクセス</u>する方法が限られており、観光の観点からは移動手段の確保が望まれています。
--	---

2 課題の整理

